

関東支部講習会 WG 議事メモ

参加者：山本先生(山)、鈴木さま(鈴)、並木さま(波)、敷野さま(敷)、野呂さま(野)、谷合(谷)

開催形態：オンライン会議

事前に議題を mail で配信しておき、主にこの議題を中心に個別に意見をいただいた。
本議事メモも議題ごとに参加者の発言をまとめたものである。

議題

Q1. 担当コース・主な実習内容

(敷)：B コースを担当しています。2021年2月の講習会は中止、

(鈴)：主に3コースを担当しています。また、吉田さんに替わって2コースについても報告します。

(並)：主に4コースを担当しています。

(野)：本部のセミナーを担当しています。

Q2 2020 年度活動報告

(敷)：2020年度の講習会は2021年2月に予定されていましたが、中止いたしました。本部主催の講習会(分析化学基礎セミナー(無機分析編))にも関わっています。2020年度もオンライン形式で開催され、参加者数は2021年1月が40名、6月に予定されている分は現時点では40人前後の申し込みがはいつています。コロナ以前は60-70人の受講者がありました。有償で、会員は2万円、会員外は3万円前後です。

(鈴)：2020年度の第2コースは中止、第3コースはオンライン形式で開催しました。第2コースは従来、慶応大学芝校舎でLC, LC/MS などについての実習を伴う講習会を行っていました。金澤先生の退職に伴って、会場を借りることができなくなり、中村先生と吉田さんの間で複数の候補を検討しましたが、現状は代替会場が見つかっていません。中村先生との間では、”これまでは実習中心の3日間コースだったので、実習ができる実験室がないと開催できない”という話でした。

3コースについては、昨年東京薬科大の小谷先生を中心にオンライン形式で開催している。最初はオンラインと対面の両方を企画したが、最終的にはオンラインのみになりました。有料のオンライン講習会として開催したが、参加者数としては10-15人程度であった。

(並)：ローズ指令対応を中心とした環境分析の講習会を行っている。昨年は土壌汚染などの分析も盛り込もうと思いましたが、中止になってしまいました。オンライン開催も検討しましたが、関連会社や団体が類似した内容の無料のオンラインセミナーが開催されているので、有料の講習会は集客が困難と判断しました。

(野)：2年前までは8-9コースの講習会を実施していたが、本部予算や本部人員が切迫して、本部セミナーの中止を余儀なくされました。一部セミナーは他学会などに移動させ、昨年度は3つのコースのみ継続を予定していました。残っている本部主催の講習会のうち、平井先生が中心の2つのセミナーについては、現状本部では継続が困難な状態になっています。

(谷) 1コースについても会場に問題があるという連絡をいただいていますので、会場に問題があるのは夏の基礎実習と1コース、2コースです。

Q3 2021 年度活動予定

(敷): 2021 年度の講習会は 2022 年 2 月に開催を予定しています。コロナの状況を確認しながら、準備は 2021 年 8-9 月にスタートしたいと思います。パーキンエルマー社の他にリガク、日立ハイテク、サーモなどの企業に参加していただいています。企業側の ManPower・協力体制は大丈夫です。6 種類の機器を使うが 3 つは大型の自社商品なので、自社会場で開催することで自社装置を見て頂ける機会として講習会を継続したいと考えています。

(並): 9 月までは外部の人を入れるセミナーが出来ない状況です。実習を含めたセミナーも 9 月まではできません。同様の内容のオンラインセミナーが無償で JAIMA などが行われているので、有料のオンラインセミナーを実施するとすれば、他社との内容の差別化が必要である。

Q4 現状の課題や問題点

(鈴): 会社としては講習会による自社の PR 効果について、定量的に評価しにくいと感じている。そのため、社内で後任の担当者を決めることは難しい。2 コースに関しては中村先生が中心になって国内の液クロメーカーが参加している。そこに出ることがメーカーとしての協力姿勢を見せる場になっている。特定の機種種の操作を体験することを目的としている講習会については、その機種種の担当者が講習会も担当している。使用している機種種の可搬性によっては、複数社が相乗り可能な講習会もある。

(並): 講習会の中では交流会の人气があったが、運営サイドの準備が大変。準備や前後のフォローなどの運営を業務として引き継ぐことは難しい。また、会社側に講習会の効果を定量的に説明することは難しい。2021 年からは自社製品のユーザー用の自社講習会は再開しています。一般の方が社内に入ることは 9 月までは認められていません。この自社のスクールは ICP や X 線、熱分析などについて、自社のユーザーを対象として有償で実施しています。その時にも人数を 15 人くらいに絞って実施し、複数台の装置で 1 グループ 5 人前後に制限し、実習と講習を 1 日で終わられるようにして実施しています。1 コースのアジレントも類似のコースを自社セミナーとして行っているようです

(鈴): 島津の場合は装置ごとの講習会を初級から中上級まで複数開催しています。参加者数も数人から十数人までさまざま、秦野工場や東京支社などで実施しています。一方、講習担当者がユーザー側に出向いて行う出張講習会も実施していて、主にメンテナンスコースを支店・支社単位で実施しています。料金については、内容によって有償のものもあれば、無償のものもあります。自社の装置を利用している場合には講習会可能ですが、開催場所が難しくなっています。

(敷) パーキンエルマーではユーザーをよんでの講習という形はあまりやっていません。ユーザー側に出向いて行って出張で講習を行っています。

Q5 実施要件(会場開催の場合・オンライン開催の場合)

境界条件の情報共有と、あるべき姿との整合性"

(鈴): 神田にある東京本社の改修が進められ、座学の講習会も現状は難しくなっています。川崎に新施設ができる予定ですが、そちらは協業施設としての運用を想定されており、講習会の会場としての利用は困難です。

(谷): 講習会の会場については、企業施設の場合には借りられる可能性は高いが、他社が入りにくいデメリットがありそうですね。大学などの教育機関では実験施設は自校学生以外には貸し出しにくくなっています。公的研究機関の施設は、施設関係者が講習会に深くかかわっていただければ借りられる可能性もあります。座学のみの場合には民間の施設を利用することも考えられます。

(並): 4 コースについては、実習ありきの講習会であり、オンラインでは集客出来ない。オンライン対応であれば、もっと異なるテーマ設定やオリジナリティーの高い内容にしないと難しい。特にメーカー側で実施している無償セミナーとの差別化が不可欠になる。

Q6 実施形態(対面・オンライン)

(鈴)：実習を含めない講習会になった時には、会社に対して講習会に参加するメリットが示しにくい。また、他社の施設に自社の機材を持ち込むことは抵抗感のある会社もある。

(並)：本部が行っている安全性などの講習会はオンライン対応もできるのではないか。装置メーカーとしては、実習を含めた形での講習会の実施が望ましい。

(谷)：機器をいじれる実習を含んだ講習会を実施したい。会場の問題があるが、開催企業の会場を利用させていただけるところには大分緩和される。

Q7. 各課題の具体的な解決案

(谷)：会場が必要なコースについては個別に担当者間で会場探しをしなくてはならないですね。本部講習会についてもこの関東支部講習会 WG の中で議論できる範囲で議論してゆきたいと思います。

Q8. スケジュール調整

7月に予定されている常任幹事会では、今回の会議内容などを踏まえて中間報告をさせていただきます。常任幹事会後に次の会合を設定したいと思います。

各コース、それまでに進捗などがございましたら、ご連絡ください。